2013年6月1日発行　通刊89号

名大病院
かわらばん
KAWARA-BAN
筆石黒直樹

病院長就任挨拶

病院長　石黒　直樹

4月より松尾清一前病院長の後任として，名古屋大学医学部附属病院長を拝命した石黒直樹です。名大病院の運営にいつもご協力戴いている皆様に，この場を借りてご挨拶を申しあげます。

名大病院が大きく変化を遂げつつあることは，最近の病院運営をご覧になって実感していらっしゃることと思います。

私は井口昭久病院長の下で3年間病院長補佐を，その後，松尾清一病院長の下で6年間副病院長を努めさせていただきました。この間，病院業務に関して大変多くのことを学び，経験いたしました。様々な課題に取り組む機会がありましたが，解決には多くの職員の方々と共に取り組んで参りました。これらの活動を通じて，チームで働くことがどれほど強力な解決能力を発揮するか身にしみて感じることができました。病院は多種の職種，多数の職員で構成されています。この構成メンバーが結びつくことで，多様な課題を改善・解決することができます。そして，この結びつきは，畢竟人と人が互いを思う気持ちから生まれることを学びました。

今後の名大病院の果たすべき役割には，①医療提供機能の充実（診療），②人材の育成（教育），③高度医療・次世代医療の開発（研究）があげられます。これら3つの活動目標の達成は，ひとつの要件が決定します。それは活動に関わる人が一番大切である，人がいなければ達成できないという事実です。医療の提供も研究開発も，人が主役です。人材の育成，教育という活動は，大学が最も得意としている分野です。名大病院の存在理由は人材の育成を行うことであると思います。良い人材の育成には教育環境（高度な医療を提供している現場）と職員の高いモチベーションが必要です。名大病院で育った人が，様々な場所，場面で活躍することは素晴らしいことです。私は，名大病院で育成に携わった人，育成された人の両者が，そのことを生涯誇れるような組織にしたいと考えています。

名大病院には素晴らしい可能性があります。それは既に優れた人材が集まっていることです。戦国武将である武田信玄は「ひとは石垣，ひとは城」と言いました。ご存じのように信玄は強固な城を持たず，遊撃する軍団を率いて戦国で勝ち抜きました。人と人の結びつきはどんな城より，石垣よりも優るという実例です。立派な建物，最新の設備によって名大病院が良くなる訳ではありません。名大病院を構成する人が良くするのです。人材育成と言っても画一的な育成には反対です。人には様々な考えと生活があります。組織の一部になるのではなく，一人一人がその持てる力を出して組織を支えることを期待します。一枚として同一なものはないジグゾーパズルのような，個性を発揮しながら全体として一枚の絵になる組織を私は創りたいと思っています。

最後になりますが，私は微力ではありますが，多くの人がこの方針に共感して手助けしていただければ，我々は名大病院をより良い組織にすることができると確信しています。またその活動を通じて一人一人がさらに卓越した能力を身につける事ができると信じています。皆さんに共感していただきご協力いただけますようお願いして，就任の挨拶といたします。

目　次

①病院長就任挨拶 …… 1
②新任挨拶 …… 2
③福島被災者に対する甲状腺検査 …… 6
④全国トップの評価で小児がん拠点病院に選定 …… 7
⑤名大病院職員のマラソン大会参加報告 …… 8
⑥名古屋ウィメンズマラソン2013における救護活動 …… 10
⑦リフレッシュルームの開設 …… 11
⑧患者給食・栄養管理業務に関する取り組み …… 12
⑨ドクターGの診療日記 その3 …… 13
⑩第15回院内クリニカルパス大会の開催 …… 14
⑪健康講座／産婦人科 …… 15
⑫ボランティアさん紹介・名古屋大学医学部附属病院の災害医療支援活動 …… 16
⑬行事報告 …… 17
⑭ナディック通信 …… 19
⑮名大病院の医事統計 …… 21
⑯編集後記 …… 22

新任挨拶

副病院長 教授　長谷川　好規

この度，石黒病院長のご推薦により副病院長を担当させていただくことになりました。就任にあたり，名大病院職員の皆様にご挨拶申し上げます。名大病院は，松尾前病院長のもとにこの数年間で病院機能上も我が国における社会的役割においても飛躍的に成長し，戦略的な活動を全国的に展開できるスタートラインにたつことができるまでになりました。新執行部には，これまでの流れを絶やすことなく，一層の展開と発展を目指すという重責が課されています。新執行部の一員として，職員の皆さんの英知を結集してこの課題を乗り越えていきたいと考えていますので，よろしくご協力のほどお願い申し上げます。私は，病院業務として財務を担当することになっております。病院の安定的な経営基盤を堅持することはもとより，「人を生かすお金の使い方」，つまり病院のミッションである「社会貢献」と「安心，安全な医療の提供」，そのための働きがいのある職場環境作りに財務面から応援させていただけるよう努力したいと考えています。

私にとって，病院執行部は未知との遭遇ですが，職員の皆さんと一緒ならば，どんなときでも前向きに楽しく努力できると考えています。皆様の応援とご指導をよろしくお願いいたします。

副病院長 教授　西脇　公俊

この度，副病院長を拝命いたしました麻酔科の西脇公俊です。昨年度の全手術件数は7,995件，麻酔科管理症例は6,046件と過去最高記録を更新し，外科系集中治療部では延べ患者数1,246名，在室中死亡率1.77%と極めて良好な成績を収めることができました。これも一重に全職員の皆様のご協力の賜物と感謝するとともに，病院全体の力を結集して名大病院の底力を示すのに貢献できたと誇りに思っております。今後とも皆様のご支援ご協力をよろしくお願い申し上げます。

さて，副病院長として私に与えられた仕事は，人事委員会，手術部，材料部及び外科系集中治療部運営協議会，医療ガス安全・管理委員会の委員長と，災害対策委員会，放射線安全委員会，救急及び救急・内科系集中治療部運営協議会の担当が直接の業務であり，それ以外の分野に関しても病院執行部の一員として高い見識が求められるものと，身の引き締まる思いでございます。これまでfor the patients, for the hospitalというスタンスで診療にあたって参りましたが，今後は副院長としてfor the publicという立場に立って，石黒病院長を支え「診療・教育・研究を通じて社会に貢献する」という病院の使命を具現化するために，誠心誠意全力を傾けていく所存でございます。どうか宜しくお願い申し上げます。

病院長補佐 教授　室原　豊明

このたび石黒新病院長の元，病院長補佐の末席を拝命いたしました循環器内科の室原です。松尾前病院長と執行部が素晴らしい病院運営を行ってこられた後を受けての，石黒先生のお仕事は，さぞや大変であろうと思っておりましたところ，図らずも石黒先生をサポートする立場となりました。

石黒先生の大きなテーマの一つは，「人を育てる」ことであると伺っております。名大病院は，卒業生が初期研修先として母校の附属病院をほとんど選択しないという全国でもまれな大学病院です。これは，この地区の文化なのかもしれませんが，私は母校の大学病院で研修をスタートし，上司の研究を間近に手伝いながら，早期から医学研究の重要性を頭に叩き込まれた人間の一人です。私はぜひとも名古屋大学の卒業生が早い時期から名大病院で研鑽を積まれ，日本をリードして行くような臨床医や研究者として育って行かれることを強く希望しています。それが結果的に石黒病院長の「人を育てる」に繋がるのではないでしょうか。

腎臓内科長 教授　**松尾　清一**

6年間の病院長任期を終え，長らく任を免れていました腎臓内科長に平成25年4月から復帰することになりました。この間，患者さんはもちろんのこと，病棟，外来，腎臓内科教室はじめ関係の皆様には大変ご迷惑をおかけしました。

現在の腎臓内科は平成14年の内科臓器別再編時に，独立した講座・診療科としてスタートしました。日本はもともと透析患者が大変多く，平成23年末で30万人を超え国民約400名に一人が透析を受けています。人口の高齢化に従い腎臓病患者は一層増加し，腎臓専門医に対する社会のニーズは大変大きくなっています。名大病院には他院では治療困難な患者さんが最新かつ最高の医療を求めて多く受診されます。このような患者さんは同時に腎機能障害を併せ持つこともしばしばです。腎臓病そのものの治療に加えて，他科の患者さんの腎臓管理やコンサルトも腎臓内科の重要な仕事であると認識しています。

このような考え方のもと，腎臓内科長として名大病院の医療の質の向上に教室をあげて貢献したいと考えています。いろいろ至らぬ点もあろうかと思いますが，よろしくお願いします。

整形外科長・リウマチ科長・リハビリテーション部長 特命教授　**西田　佳弘**

4月1日付で整形外科長，リウマチ科長，リハビリテーション部長を拝命いたしました西田佳弘と申します。かわらばんの読者の皆様方に謹んでご挨拶申し上げます。私は昭和63年に名古屋大学医学部を卒業し，関節軟骨・骨軟部腫瘍の基礎研究，臨床では関節リウマチに引き続き，骨軟部腫瘍を専門としてまいりました。皆様はロコモティブシンドロームという言葉をご存知でしょうか。ただ生きる，ではなくより有意義に生きるためには健康な運動器(骨・筋肉・関節など)機能が必須です。私の担当する3つの科・部はこの運動器の機能を維持，改善することを最大の目的の1つとしています。

また，名古屋大学医学部の使命として，日本・世界へ新しい治療法の発信をすることが重要と考えております。整形外科は，小児・膝肩・股関節・脊椎・骨軟部腫瘍・リウマチに大きく分かれ，手の外科を含めて広い分野をカバーしています。各分野において前向きな研究を通して患者さんの運動機能改善に向けた新しい治療を開発していくよう精進いたします。病院長である石黒主任教授とともに名大病院発展のため精一杯尽力してまいりますので，皆様方のご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

乳腺・内分泌外科長 講師　**菊森　豊根**

2月1日付で乳腺・内分泌外科長を拝命致しました。新任科長として皆様にご挨拶申し上げます。

当科も全国的な外科医減少の影響を受け，この4月以降は6人体制となっています。そのような状況の中で，近年増加の一途をたどる乳癌をはじめ，甲状腺癌，副腎腫瘍，副甲状腺腫瘍，それらが合併した多発性内分泌腫瘍症などの治療に当たっています。乳癌については放射線科，化学療法部と協力して高精度な術前画像評価，標準的な外科治療・薬物療法・放射線治療を実施することを基本としています。また，臨床試験などに積極的に参加し，新規治療の開発に貢献しようと考えています。甲状腺，副腎については中部地区での高難易度症例の最終的な治療センターとして各地からの紹介を受けています。こうした診療活動は院内診療科，部門の方々のご理解，ご協力の賜物と思っています。

少人数の診療科ではありますが，名大病院の名前に恥じないような，また日本の医療をリードしていくような診療を行っていきたいと思っています。皆様には今後も引き続きご指導ご鞭撻ならびにご支援下さりますよう宜しくお願い申し上げます。

新任挨拶

手術部長 教授　亀井　譲

このたび，退職された安藤（小児外科）教授の後任として，手術部長に就任しましたので皆様にご挨拶申し上げます。

私たち形成外科は，耳鼻科，口腔外科，整形外科における悪性腫瘍切除後の再建，乳癌切除後の乳房再建など，他科と合同で手術を行うことの多い科であります。したがって手術室に出入りすることも多く，また，各科の実情なども把握しやすいことから私が任命されたのではないかと思っております。

現在病院運営において，手術部業務は重要なものとなっており，年間手術件数の増加が課題となっております。昨年，麻酔科や手術部スタッフのおかげで手術枠の増加により手術件数が約8,000件に増加しました。それでも，まだまだ手術待ちの患者さんが後を絶ちません。この問題を解決しない限り，中核病院としての機能は果たせないと考えております。そのためには，手術室の増加，麻酔科医，看護師などの増員，時間外手術や医療安全など，解決しなければならない問題が多くあります。これらを少しずつ解決して，より多くの患者さんの手術が安全に行われるように努力したいと思います。皆様方のますますのご支援ご鞭撻をお願いして就任のご挨拶とさせていただきます。

材料部長 教授　後藤　百万

この度，材料部長を拝命いたしました泌尿器科，後藤百万です。病院における診療活動が，スムースで効率的に行われるためには，診療に関わる材料が円滑に供給されることが必須条件です。また，診療活動のみならず，効率的な病院経営を図るためにも，適切で潤滑な材料の選定と供給が求められます。こういった意味で，材料部は，確かに病院の花形ではありませんが，病院のあらゆる活動を下支えする非常に重要な部署です。経験不足ではありますが，今回部長を拝命いたしましたので，本部署が最大のパフォーマンスを発揮できるよう，全力を尽くしたいと存じます。ご協力のほど，よろしくお願い申し上げます。

地域医療センター長 教授　葛谷　雅文

この度，石黒病院長に変わり地域医療センター長に就任いたしました葛谷でございます。私にとって地域医療センターは，長らく副センター長を務めさせていただいておりましたし，この部門の立ち上げから関わらせていただいており，大変馴染みの深い，思い入れの強い部門であります。地域医療センターは退院支援活動を平成15年4月より開始いたしました。当時のスタッフはMSW選任1名，パート1名，薬剤師1名（兼任），看護師3名（兼任），事務1名（兼任），医師若干名という小所帯でありました。各診療科の皆さんが地域医療センターの退院支援システムを利用していただけるか大変心配しておりましたが，みるみる利用者が増え，昨年はほぼ1,000名の患者さんがセンターの退院支援を介して退院されています。また，地域医療センターは登録施設からの紹介窓口にもなっており，主にファックスによる紹介数も増加しています。

今後も地域に開かれた名大病院を実践するため，地域医療センターができるだけ貢献できるように，スタッフともども頑張っていく所存であります。どうか，ご支援のほどよろしくお願い申し上げます。

副看護部長　横山　恵

このたび，4月1日付をもちまして副看護部長を拝命いたしました。皆様方に謹んでご挨拶を申し上げます。担当は教育です。教育担当の役割は，看護職員の現任教育に関すること，学生の臨床実習に関すること，看護研究活動に関することが主な内容です。これまでの諸先輩の活動によって，平成21年度から全国に先駆けて新人看護職員を対象とした卒後臨床研修制度を導入し，定着に至りました。また，従来のクリニカルラダーシステムを見直し，新人看護師が自分の成長を実感し，将来を見通すことができるキャリア開発システムを構築してきました。看護職員数のみならず専門・認定看護師数は増加し，教育は組織的な取り組みとなってまいりました。大学病院の今後の在り方として，名古屋大学医学部保健学科とのユニフィケーションや，院外からの研修受け入れを課題としています。高度な総合医療と質の高い看護を提供するために，自ら考え，自ら行動することができる感性豊かな看護師を育成することに努めてまいります。

経営企画課長　安田　浩明

平成24年4月1日から経理課長として1年間お世話になり，この度4月1日付けで経営企画課長を拝命いたしました安田と申します。皆様に謹んでご挨拶申し上げます。

私は採用時に10年間医事課に在籍したのを始めとし，事務局，理学部，工学部及び核融合科学研究所での業務も経験してきましたが，経営企画課・経理課等で，在職期間31年間の半分以上である18年間病院業務に携わって参りました。

経営企画課は，直面する経営課題に適切に対応するために，病院長の諮問機関である経営戦略本部の下，医師の先生方を始めとする様々な職種の皆様と相互連携の上，毎年度目標とする病院収入を獲得するための経営戦略を策定し，戦略実施後におけるリアルタイムな状況把握等の業務を行い，更なる戦略等を策定する業務を行っております。また，先生方のご努力により獲得致しました「橋渡し研究加速ネットワークプログラム」及び「臨床研究中核病院」につきまして，円滑に遂行できるようサポートさせていただきたいと思っております。

石黒新病院長の新体制の下，微力ではありますが皆様と共に名大病院発展のために貢献できるよう頑張っていきたいと思いますので，ご指導ご鞭撻のほど，よろしくお願い申し上げます。

経理課長　堂前　弘樹

このたび4月1日付けで，経理課長を拝命いたしました。

これまで，主に会計関係の業務に携わってきましたが，鶴舞地区での業務，病院関係の業務は初めての経験となりますので，就任以来，驚きと戸惑いでいっぱいです。伝統があり，社会からの期待も大きい名大病院で仕事をさせていただくことに，重圧を感じていますが，大変興味も持っています。

経理課の業務は，旅費や謝金の支払いから，医薬品や最先端設備の調達まで幅広く，迅速に対応することが求められますが，一方で適正かつ公正な会計処理が求められ，その手続きは大変手間のかかるものになっています。

微力ではありますが，新たな視点で，更なる改善・効率化に向けて頑張っていきたいと思いますので，よろしくお願いいたします。

施設管理主幹　佐野　立明

4月1日付けで，祖父江施設管理主幹の後任として，施設管理部施設管理課より着任いたしました。よろしくお願いいたします。

4月1日にまず気付かされたことは，人との関わりがストレートに伝わってくる事です。今までの職務は主に建物の建設，インフラの整備，その維持管理，エネルギー管理とどちらかと言いますと対物的な事を中心に行ってきました。人との関わりは全くないわけではありませんでしたが，このような物を通しての感じでした。こちらに来ましても同じような職務もありますが，それに加えて，患者さん，医師の方々，看護師の方々，お見舞いに来た人，それをサポートする方々の意見や，行動等が直接伝わってくる気がします。さらに職域も広く，警備業務，駐車場管理業務，清掃業務，安全管理と今まで経験したことがない範囲です。しかも，これらは単なる見回りではなく絶えず人とのやりとりが関わることに驚かされました。

このように初めての職域の事もあり，皆様には初心者的な質問などをするかもしれませんが,吸収力を旺盛に，施設管理主幹として頑張っていきたいと思いますのでご支援方よろしくお願いいたします。

医療業務支援課長　武内　松二

4月1日付けで，医療業務支援課発足と同時に，同課の課長を拝命いたしました。医療業務支援課の前身にあたる医療サービス課が所掌していた業務に加え，様々な疾患について中核的な病院として質の高い医療を提供する仕組みを策定する拠点病院関係の業務も担当します。医療支援，患者支援，地域連携等，病院として責任ある業務を担当する部署を担うこととなり身が引き締まる思いです。これらの業務についての経験は決して多くありませんが，日々勉強をし，一日も早くお役に立てるよう努力して参ります。皆様のご指導，ご鞭撻を賜ることができれば幸いです。

福島被災者に対する甲状腺検査

放射線部 副部長　佐竹　弘子

平成23年3月11日に発生した東日本大震災から2年以上が経とうとしています。福島県では，震災に係わる東京電力株式会社 福島第一原子力発電所事故に対して，多くの県民が健康に不安を抱えている状況を踏まえ，県民の健康を見守り，将来にわたる健康増進につなぐことを目的に県民健康簡易調査が行われています。この中で，震災当時18歳以下であった県民を対象として，甲状腺の状況を把握するとともに，子供たちの生涯にわたる健康を見守るため，エコー検査による甲状腺検査が実施されています。この甲状腺検査は，平成23年10月から福島県内に会場を設置して行われていますが，対象者の中には，福島県外に移住，避難されている方々も多く，県外でも甲状腺検査が行われることになりました。

県外検査実施施設を整備するにあたり，甲状腺関連の複数の学会で構成される検討部会より名大病院を推薦いただいたことから，当院でも平成24年10月から愛知県およびその近隣に移住，避難されている18歳以下の方々を対象に甲状腺のエコー検査を実施しております。検査は放射線科医師と診療放射線技師が協同して行っており，いずれのスタッフも，日常診療においては成人の甲状腺エコー検査に携わっている者達です。対象者が小児・幼児であること，小児・幼児を対象とした甲状腺のエコー検診のデータがほとんどないことなど，当初は懸念される点がありましたが，カンファレンスを定期的に行ったり，学会に参加したりすることによって，検査の状況を共有し情報交換をしながら行っております。

現在行われている検査は先行調査であり，現状の甲状腺の状態を把握することを目的としています。そしてその後に行われる本格検査の結果と比較することで放射線の影響がないか見守っていくこととなります。今後，20年以上は継続される計画であり，放射線科・放射線部内でも長期的に取り組める体制づくりが必要と考えています。スタッフそれぞれが，責務を十分に自覚し，精度の高い検査，よりよい検査環境づくりに努めたいと思っております。

全国トップの評価で小児がん拠点病院に選定

小児科長　小島　勢二

意外と思われるかもしれませんが，がんは小児においても，不慮の事故についで死因の第2位を占めています。しかし，小児がんの発症頻度は，小児人口1万人あたり年間1人と稀な疾患で，わが国における年間の新規患者数も，2,000人程度と考えられています。発症部位も成人とは異なり，頻度の高いものから1）白血病，2）脳腫瘍，3）神経芽細胞腫，4）悪性リンパ腫，5）軟部肉腫と続きます。最も頻度が高い急性リンパ性白血病でも，年間の発症数は500人にすぎません。

しかしながら，小児がんは発症数が少ないわりに取り扱う病院が多く，病院によっては治療経験が限られることから，必ずしも適切な医療を受けられないことが問題視されてきました。そこで，厚生労働省は，難治性あるいは専門性の高い治療を必要とする小児がん患者を集約して，質の高い医療を提供することを目指し，小児がん拠点病院の選定を進めてきました。これは，医療技術のみでなく，小児がん患者とその家族が安心して適切な医療や支援を受けられるように，プレイルームや院内学校，さらに長期宿泊施設など院内環境の整備も大きな目標とされています。

小児がん拠点病院の選定は，書類選考で残った22病院を対象に，ヒアリングをおこない，全国で15病院が選定されました。選定にあたっては診療実績のみならず，緩和ケアー，長期フォローアップ体制，病診連携，患者相談や教育の支援体制，診療体制・診療設備や研修の実施体制，臨床研究を含む総合的な見地から，9人の委員からなる有識者の採点結果をもとに作業が行われました。その結果，当院は総合点で全国トップの評価を得て，三重大学病院とともに，東海・北陸ブロックの拠点病院に選定されました。選考の過程や評価点は厚生労働省のホームページに公開され，その選考過程は透明性の高いものでした。

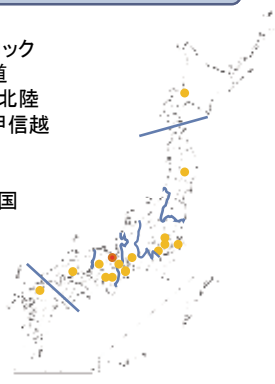
この結果をうけ，名大病院では，さらに小児がんの診療スタッフ，診療設備の充実を図り,臨床研究を進めるとともに，ブロック内の他の医療機関と連携して，よりよい小児がん診療体制の構築を目指していきたいと考えています。今回，名大病院が拠点病院に選定された背景には，医師のみでなく，看護師，薬剤師，臨床心理士，管理栄養士，理学療法士，臨床工学技士，チャイルドライフスペシャリストなど多くの職種が参加するチーム医療が高く評価されたものであり，チーム医療のよりいっそうの推進を図りたいと考えていますので，今後もご協力ください。

小児がん拠点病院の選定

（各地域ブロック毎に１～３施設，計１０施設程度）

15施設が選定

地域ブロック
①北海道
②東北・北陸
③関東甲信越
④東海
⑤近畿
⑥中・四国
⑦九州



1	名古屋大学	4.48
2	京都府立医科大学	4.44
3	九州大学	4.31
4	広島大学	4.30
5	兵庫県立こども病院	4.29
6	国立成育医療センター	4.26
7	三重大学	4.23
8	埼玉県立小児医療センター	4.19
9	神奈川県立こども医療センター	4.18
10	大阪市立総合医療センター	4.16
11	東北大学	4.10
12	大阪府立母子医療センター	4.09
13	北海道大学	4.05
14	京都大学	4.01
14	東京都立小児医療センター	4.01

名大病院職員のマラソン大会参加報告

今年の春も各地でマラソン大会が開催されました。その中で，2月24日（日）開催の「東京マラソン2013」と，3月10日（日）開催の「名古屋ウィメンズマラソン2013」及び「名古屋シティマラソン2013」に参加した，名大病院職員の感想をご紹介します。

2月24日（日）開催：東京マラソン2013

循環器内科長　室原 豊明

タイム：5時間37分

20年来ジョギングをしておりますが，ノーベル賞学者のルイ・イグナロ教授（前名古屋大学外部評価委員）からの刺激を受けて，私も5年前からフルマラソンを始めました。昨年ダメモトで抽選に応募しておりましたところ，偶然にも東京マラソンに当たってしまい（笑），走ってきました。今回は約1年ぶりで，7回目のフルになります。練習不足からタイムを競うとか自己タイム更新という感じではありませんでしたので，ごくごく平凡な記録ですが完走出来ました。快晴でしたがとても寒く強風が吹く中，多くの沿道の歓声にも助けられ，なんとか走ることができました。マラソンが本当に体に良いのかどうかいろいろな説がありますが，私はあくまでも有酸素運動として，スロー・ランを楽しんで行こうと考えています。

3月10日（日）開催：名古屋ウィメンズマラソン」及び「名古屋シティマラソン2013」

経営企画課 研究協力掛　山浦 裕子

フルマラソン タイム：4時間54分06秒

友人の勧めから初のフルマラソン参加を決めました。練習不足から不安はありましたが無事完走することができました。途中，強風が吹いたり雨が降ったりしましたが，最後まで沿道にはたくさんの応援してくれる方がいて，寒い中見守ってくれることにとても心が温まりました。特に30km過ぎてからの一番辛い時間は，沿道から食べ物や飲み物，エアサロンパスを無償で差し出していただき，「頑張れ」「あと少し」「自分に負けるな」などの言葉を大きな声でかけていただき，「日本っていい国だね」なんて友人と語りながら走りました。身体は辛かったけど心は充実したフルマラソンでした。

医事課 診療報酬掛　橋本 真里

名古屋シティマラソンは，市のお祭りごととして，毎年楽しんで参加しています。縁あって，今回かわらばんに載せてもらえたので，これを機会に次の目標に向かえたらと思います。ここに一緒に掲載されている先輩ランナーの方を参考にして，よしっ，来年はフルマラソン参加しよう!そう思います。

13W病棟看護師　中込 真弓　フルマラソン タイム：5時間49分50秒

昨年に引き続き今年もマラソン出場しました。タイム狙いではない私はエイドステーションで“ういろう”を何個持って帰ろうとか，持参のようかんはお城を見ながら食べようかとか，そんな事ばかり考えて楽しく走りました。職場のスタッフや患者さんからのメッセージを背中にしょって走りました。楽しく走る『13Wマラソン部』新入部員待ってます(^0^)／

13W病棟クラーク　石川 順子

フルマラソン タイム：4時間12分27秒

去年の大会が初マラソンでしたが，怪我で惨敗してリベンジを誓って一年，ランニングクラブに加入し，練習，貧血，内臓疲労，高地トレーニング，ホノルルマラソン出場・・・いろいろ経験しました。10月からは月間300キロを目標に(実際には最高で260キロ)走り込みました。足の疲労は残るもののまずますの仕上がり。しかし，大会二日前にまさかの発熱38度1分。なんて間の悪い!二日間寝込んで当日，36度台に下がったので出場。結果は4時間12分27秒!4時間を切ることができずに，今はただ悔しい思いでいっぱいです。この思いを糧にまた一年頑張りたい，そして今年はトレイルランニングにも挑戦したいと思います。

GCU看護師　徳永 絢子

フルマラソン タイム：3時間38分44秒 ＜766位/14124人中＞

5回目のマラソン。今年は骨折をしてしまい，職場にもご迷惑をおかけしました。それでも沢山の人に応援して頂き，無事に完走することが出来ました。ありがとうございました。来年は自己ベスト更新を目指して，また頑張ります。

名古屋ウィメンズマラソン2013における救護活動

救急・EMICU部 部長　松田　直之

名古屋ウィメンズマラソン2013が3月10日（日）に，日本陸上競技連盟及び中日新聞社の主催で開催されました。本大会は，国際陸上競技連盟，日本陸上競技連盟規則および本大会規定によるラベル大会であり，名古屋における第2回目の開催として総数16,447名のエントリーとなり，日本の代表的な女子マラソン大会となりました。

一方，このようなマラソン中における心肺停止の発症率は平成4年4月から平成23年8月までの間に開催された国内のマラソン大会だけでも，127名と報告されており，現在は，約1万人の走者に1名は心肺停止が出現すると見積もられています。このような心肺停止は，初心ランナーに多いわけではなく，フルマラソンを約3時間30分から5時間でゴールする「中速ランナー」に多い特徴があります。

このことから，愛知県および名古屋市等からの要請として，名大病院からも医療救護隊が派遣されることとなりました。医療班は，2.5-5km間隔で設置された救護所15か所，救命医療チーム17チーム，BLS隊58チーム，ランニングドクター46名，ランニングサポーター40名，重点救急隊5隊，民間搬送救急車18台などから構成され，適切な心肺蘇生に備えて134台のAEDがコースや救護所などに設置されました。名大病院は，27.5 km地点の救護所を担当し，救急・EMICU部医師2名・ICU看護師2名・事務職員1名の5名が現場指揮と診療に当たりました。従来，27.5 km地点および30 km地点は，患者数の多いことが統計的に知られている診療拠点ですが，本大会でも，27.5 km地点では傷病者65名を担当し，最多でした。

本大会では，心肺停止患者は認めず，全512名の傷病者対応がなされました。この主な内訳は，内因性病態では，吐気（27.5%），腹痛（19.6%），疲労（7.8%），外因性病態では筋肉症状（40.4%）が主体であり，筋痙攣が18.3%でした。また，名大病院の担当した27.5 kmの救護所では，一過性意識消失による転倒例が搬入され，初期診療の後に，救急搬送しています。

本大会の救護活動では，救護所記録簿などがしっかりと整えられており，仮設ベッドでの診療が実にスムーズに行うことができました。名大病院における質の高いスピーディーな診療が，救護所でも同様に展開されたと評価しています。

当日の様子

救護所の設営風景

リフレッシュルームの開設

人事労務グループ

4月8日（月）から，名大病院に勤務する職員を対象としたリフレッシュルームを開設しました。

リフレッシュルームは，名大病院に勤務する職員の身体及び精神疲労の回復，疾病予防等を図るために開設されたもので，併せて，視覚障がいを持つヘルスキーパーを2名雇用することで，障がい者雇用の拡大も目的としています。

<ヘルスキーパーのご紹介>

荒井　敏夫

4月より新しく設置されました「リフレッシュルーム」で，ヘルスキーパーとして働くことになりました，荒井敏夫です。私には視覚障がいがあります。中心視野が欠損しており，視力も0.02程度です。周囲がぼんやりと見えていますので，一人で病院内を移動することはできますが，院内表示等はよく見えません。皆様の顔も息がかかる程に近づかないと分かりません。したがって，一，二度お会いしているのに，すれ違っても気付かないことがあるかも知れません。そんな時は，気軽に声を掛けて下さい。声と雰囲気が頼りです。

私達は「もう一回行ってみようかな。」と思って頂けるような施術を心がけ，多くの方に声を掛けて頂けるようになりたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

竹本　洋子

この度，新設されました「リフレッシュルーム」で，ヘルスキーパーとして勤務することになりました，竹本洋子と申します。視覚，聴覚共に障がいがあります。暗い所，段差，人の沢山いる所は歩き辛いです。視野が狭く，中心が見える程度です。高い音が聞こえず，後ろから話しかけられるのも苦手です。

こんな私ですが，皆様にリフレッシュしていただけるように頑張って行きたいと思っています。沢山の方々に，ここを，利用していただけたら嬉しいです。皆様のご意見，ご感想をこれからの施術に役立て，より魅力ある内容に変えていきたいと思っています。家に帰れば，3人の子の母親として忙しくも楽しい毎日を送っています。仕事を持つことが夢でしたので，今は贅沢な毎日です。今後とも，どうぞよろしくお願いします。

患者給食・栄養管理業務に関する取り組み

栄養管理部副部長　鈴木　富夫

栄養管理部では，大きく分けて次の３つの業務を行っています。

１．入院患者に対する患者給食の提供

２．入院・外来患者に対する栄養食事指導

３．入院患者の栄養状態の評価，栄養管理計画に関する業務

患者給食の特色としては，他院に先駆け一般食全ての食事で「選択メニュー」を導入しました。高齢者食などの食種を充実させ，食欲の少ない方にむけた「ハーフ食」を設けるなど，患者ニーズに対応したきめ細かい食事提供を行ったり，また，食事サービスの一環として「誕生日食」や「出産お祝い膳」を提供してきました。入院患者の糖尿病教室では，「糖尿病バイキング教室」を取り入れ，より実践的な患者指導に取り組みながら，常に“安全でかつ満足度の高い食事提供”に努めています。

もうひとつの柱である栄養管理業務は，平成18年の診療報酬改定で新設された栄養管理実施加算に端を発する業務であり，入院患者の栄養状態の評価や栄養管理計画の作成・介入など，栄養面から患者の疾病治療に貢献しようとする業務です。時期を同じくして平成19年に栄養管理室が事務部門から独立し，中央診療施設に位置付けられたことも管理栄養士が病棟活動を行いやすい環境整備に一役買いました。特に最近では，「チーム医療」が推進される中，病棟における管理栄養士への役割が増加するとともに，栄養管理の重要性が再認識されたことにより，徐々にではありますが活動の評価が高まってきました。

その後も，平成22年に栄養サポートチーム（NST）加算の新設，平成24年には栄養管理実施加算が改変されて全ての入院患者に対して，医師・看護師・管理栄養士が共同して「入院時の栄養評価」と「特別な栄養管理の必要性」を検討することが必須となり，栄養管理計画の作成・定期的な評価など数年前の栄養管理部業務から大きく様変わりしました。

誕生日食一例

直近の取り組みとしては，平成24年診療報酬改定で新設された，「糖尿病透析予防指導」に関する業務であり，昨年9月全国に先駆けて院内に医師，コメディカルを中心とした糖尿病治療のスペシャリストチーム「糖尿病サポートチーム（DST）」を組織しました。DSTでは，外来の糖尿病教室，毎年11月14日の世界糖尿病デーに合わせた“糖尿病公開講座”を開催しており，栄養管理部としても“食事療法の講義”や“体脂肪・筋肉量測定コーナー”，“糖尿病食・糖尿病性腎症食のモデル食展示コーナー”など複数の体験ブースを積極的に企画運営し，DSTの中心的メンバーとして活動しています。

糖尿病公開講座

連載クイズ
ドクターG（ジェネラル）の診療日記 その3

総合診療科　鈴木　富雄

ジェネラルとは「総合」という意味で，ドクターG（ジェネラル）とは，心臓，肺など人間の体の一つの臓器にとらわれずに，患者さんを総合的に診させていただく医師，すなわち「総合診療医」のことである。これはそんなドクターGの診療日記である。

ドクターG　「今日はどうされましたか?」

患者Aさん　「実は，なんだか胸がドキドキして…。」

ドクターG　「なるほど。それは大変ですね。ではもう少し詳しくお話して下さい。」

患者Aさん　「ここ3，4ヶ月ぐらい前からですか，なんだか胸がドキドキするんですよ。家にいる時も感じますが，動いた時のほうが少し強いかなあ。こりゃ心臓がどうかなったのかと思い，すぐに近くの医者に行き心電図をとってもらったんですが，脈が若干速いぐらいで何ともないと言われたんです。でもやっぱり心配で次はB病院の循環器内科を受診したんですよ。そこでは胸のレントゲンをとられ，心臓の超音波検査，ほら，あのエコーってやつを胸に当てられて，心臓の動きは良いから大丈夫と言われました。その時にストレスが原因なのでは? とも言われたんですよ。確かに仕事でストレスは多くて大変ですが，自分では割に気分転換を上手にできているほうだと思っていて，子供の野球チームのコーチなんかも楽しくやれているんですよね。」

ドクターG　「そうですか。それはお困りですよね。では少しいくつか質問したいことがありますので,お答えくださいね。その他の症状はありませんか? 例えば野球のコーチとおっしゃいましたが，同じように動いても以前に比べて疲れやすいとか，体重が減っているとか?」

患者Aさん　「あっ，そういえば，食欲はあってかなり食べているのに，体重がここ1か月で3kgも減ってしまっているんです。それでかもしれませんが，前に比べて疲れが取れないんですよ。」

ドクターG　「なるほど，便の様子はどうですか? 硬さとか，色とかは?」

患者Aさん　「便ですか，もともと便秘気味だったのですが，最近はすごく便通がよくて，むしろ快調です。でも時に下痢気味で，少しゆるすぎるかもしれないなあ。あ，便の色は毎日注意をしていましてね。ほら，親父が大腸がんだったから。でもきれいな茶色で問題ないですよ。」

ドクターG　「なるほど，あなたはおそらく心臓の病気ではありませんね。」

患者Aさん　「えっ，検査もしないのにどうしてわかるんですか? 今日は徹底的に心臓を調べてもらおうと思ってきたのに。」

ドクターG　「まあまあ，あわてずに，少し体を診察させてください。」

（ドクターGはAさんの手をじっと見てから，眼と首の辺りを特に念入りに診察をしました。）

「Aさん，あなたの病気が分かりましたよ。まず間違いないと思いますが，血液の検査で確かめてから，薬を出しましょう。これで良くなるはずですよ。」

この後，ドクターGはある検査をして結果を確認すると，薬を処方しました。2週間後の再診日には，Aさんはうれしそうに，胸のドキドキもなくなり体の調子も良いんです! と喜んで報告されました。さて，診断は何だったのでしょうか? 皆さんはおわかりになりますか?

（答は，P18をご覧ください。）

第15回院内クリニカルパス大会の開催

クリニカルパス委員会

3月1日(金)，第15回院内クリニカルパス大会を開催いたしました。

クリニカルパスとは，主に，入院時に患者の方に手渡される病気を治すうえで必要な治療・検査やケアなどをタテ軸に，日付をヨコ軸に取って作った，診療スケジュール表のことです。そのクリニカルパスに関する活動の発表として，当院では年に2回院内クリニカルパス大会を開催しております。

最初に吉田委員長および後藤秀実教授より当院におけるクリニカルパスの意義・必要性の説明の後，4W，6E，11Wそして12E病棟より，パスの作成報告，パスから発展した有害事象評価システムの発表がありました。

参加者は157名となり，講堂がほぼ満席となる盛況でした。今後も医師・看護師を始めとした医療スタッフが，診療科の壁を越えて情報共有を活性化させる場としていきます。

次回は9月頃に行われますので，よろしくお願いします。

会場の様子

表彰式の様子

最優秀賞は12E病棟

多職種による11W病棟の発表

健康講座／子宮頸がん検診のすすめ

産科婦人科長　吉川　史隆

最近は，非常に初期の子宮頸がんや前がん状態（異型上皮）で紹介されてくる患者さんが増えていますが，それでも，進行した状態の患者さんも多く見えます。そんな患者さんに話を聞くと，「お産の時以来，産婦人科にはかかったことがない」と言われる人が多く見えます。これは非常に残念なことです。

子宮頸がんでの死亡者数は女性の悪性新生物（がん）のうちで8番目です。決して，胃がん，大腸がんや肺がんに比べて多いものではないのですが，実は前がん状態を含む子宮頸部腫瘍にかかる患者数は一番多いのではないかと思われます。子宮頸がんはヒトパピローマウイルス（HPV）が原因で発症しますが，HPV感染からがんになるまでに約10年かかります。そのため，がんになる前（前がん状態）に発見されて，治療されている患者さんがたくさんいるのです。

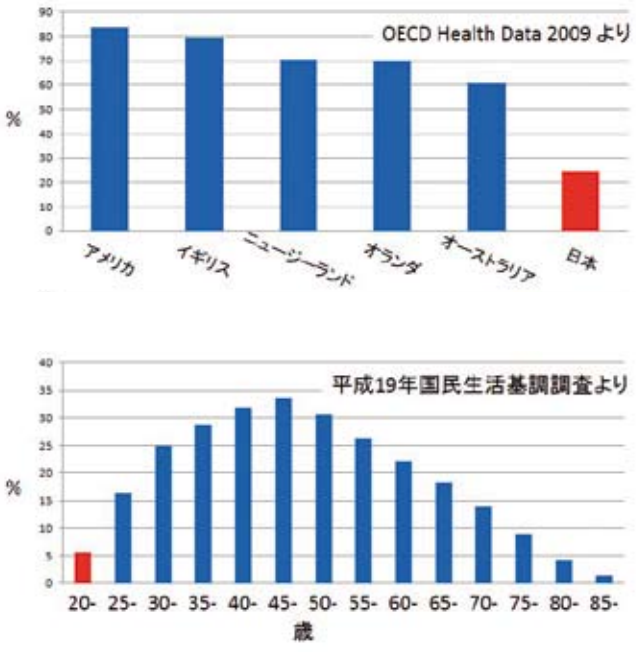
また，国も自治体や企業検診に力をいれています。ちょっと考えると，「がん検診はしないより,したほうがいいに決まっている」，「早期発見，早期治療だ」と思っている人が大半ですが，実はがん検診が有効ながんは数種類しかありません。子宮頸がんは，検診費用が安い，検診方法が簡便，前がん状態の期間が長い，等がん検診に適したがん腫です。

がん検診は絶対ではありません。多くの人は「異常なし」であれば「病気がない」と勘違いしています。ですが，「異常なし」は「今回の検査では異常を発見できませんでしたが，病気があるかもしれません」ということなのです。つまり1回の検査では病気を見逃す（偽陰性）こともあります。しかし回数を重ねれば毎回見逃す可能性は低く，がんになるまでに10年かかる子宮頸がんはがん検診に適していると言えます。

先ほど述べたように，子宮頸がんは検診により早期発見しやすいがんであり，早期発見で救命できるがんなのです。年齢訂正死亡率を見ると，昭和30年代には胃がん，子宮がんが1位，2位を占めていましたが，がん検診の普及により両者とも死亡者数は激減しています。ただ，子宮頸がん死亡者数は平成12年以降少しづつ増えていることが懸念されます。また，高齢者に多いと思われているがんではありますが，子宮頸がんに関しては20歳から30歳代がピークで，若い女性（20歳から30歳代）のがん罹患者数では子宮頸がんが1位です。この世代の人は仕事や子育てで忙しく，そして何よりまだがんを身近に感じていないため，がん検診の受診率が極めて低いのが問題です。子宮頸がん検診は厚生労働省から「がん予防重点健康教育及びがん検診実施のための指針」において子宮頸がん検診は20歳からと定められています。

残念ながら，名大病院では子宮頸がん検診は実施していませんが，簡単な検査ですので最寄りの産婦人科医院，クリニック，病院等で是非，子宮がん検診を受けてください。

参考資料：子宮頸がん検診の受診率



ボランティアさん紹介

水溪　雅子

この4月からナディックに登録させていただきました。

私は名古屋大学を退職した後，三好市の豊田看護大学に車通勤しておりましたが，2年目になって腰痛を発症しました。10分程度の車の運転や椅子に掛けることさえ苦痛でした。焦り，落ち込みましたが退職して自己管理に徹しました。ネットを通して様々な情報を得たり，腰痛経験者の話を聞き，健康情報誌も読みあさり，さまざまなストレッチやヨガ，ウォーキングを続け，数カ月ほどで短時間の運転が可能になり，2年近く経過した今では，腰痛を気にせずにパソコンに向かったり1泊旅行の運転手もするなど，以前よりも活動的な生活をするようになってきました。

一病息災という言葉がありますが，今回の腰痛管理の経験は，これまでいい加減にしてきた食生活・適切な運動など，生活習慣を見直すきっかけになりました。

このような経験をしたこともあり，ナディックについては，利用者さんが症状や治療法などについて十分な情報を得て，「主体的な自分の病気の管理者」になってもらいたいと思っています。

名古屋大学医学部附属病院の災害医療支援活動 （平成25年4月30日時点）

名大病院では，平成23年3月12日に「東日本大震災医療支援対策本部」を設置し，各大学病院との協力体制の下，被災地への医師等の派遣をはじめとする医療支援活動を行ってきました。

その後も，被災地における医療ニーズの変化に対応した，継続的な支援活動を展開しております。

平成24年度

	派遣者	派遣期間	派遣先
医療支援チームの派遣	1名（医師・こころのケア医療支援チーム）	6月17日～18日	相馬地区
	1名（医師・こころのケア医療支援チーム）	7月22日～23日	相馬地区
	1名（医師・麻酔科）	9月3日～7日	いわき地区
	1名（医師・こころのケア医療支援チーム）	9月23日～24日	相馬地区
	1名（医師・整形外科）	10月1日～5日	高田地区
	1名（医師）	11月5日～9日	いわき地区
	1名（医師）	3月11日～15日	北茨城市
卒後臨床研修医の派遣	1名（2年次研修医）	7月17日～8月10日	岩手県立宮古病院　等
	1名（2年次研修医）	9月10日～10月6日	
	1名（2年次研修医）	10月9日～11月2日	
	1名（2年次研修医）	12月3日～28日	
	1名（2年次研修医）	1月28日～2月22日	

平成25年度

	派遣者	派遣期間	派遣先
	2名（1名:医師・放射線科/ 1名:放射線技師・放射線部）	4月30日～5月1日	福島県立医科大学

*平成23年度の支援活動状況はかわらばん88号に掲載しています。

行事報告

○「ぽしぇっと20周年記念おはなし会」を開催しました

3月14日（木）中央診療棟2階リハビリ広場にて，小児ボランティアグループ・ぽしぇっとのメンバーによるおはなし会を開催しました。ぽしぇっとは，入院生活を送る子ども達と付添の家族を対象に，入院生活によるストレスを和らげる一助となるよう，平成4年から名大病院内小児病棟で活動しています。おはなし会の前に病院を代表して，松尾前病院長からの挨拶とぽしぇっとの紹介があった後，とんちゃんという人形による腹話術を交えた司会で始まり，「お花が笑った」の歌や大型紙芝居，大型絵本による朗読，参加者へのプレゼント等，終始楽しめるものばかりで，子ども達は大喜びの様子でした。病院からは，ぽしぇっとの20年の活動に感謝し，松尾前病院長から感謝状が贈呈されました。

○「スプリング・コンサート」を開催しました

3月15日（金）中央診療棟2階リハビリ広場にて，名古屋大学医学部室内合奏団によるコンサートを開催しました。名古屋大学医学部室内合奏団によるコンサートは毎年クラシック音楽を中心に行われていますが，今回はクラシック音楽に限定せず，誰もが一度は耳にしたことのある曲を中心としたプログラム内容でした。最初，弦楽合奏によるヘンデルの「水上の音楽」からスタートし，楽器編成を変えながら，途中フルートとオーボエの二重奏による「トルコ行進曲」などは，メロディがフルートとオーボエで交互に入れ替わり，おもしろい響きを醸し出しており，当日参加した約60名の参加者は，コンサートを大いに楽しんでいました。

行事報告

○ドナルド・マクドナルド・ハウスへの建設寄付　　総務課

3月14日(木)に，鶴舞地区に建設されるドナルド・マクドナルド・ハウス なごやの募金委員会へ愛知県下の医師のために設立された金融機関である愛知県医師信用組合から，創立50周年の記念事業として，建設寄付をいただきました。

（左）目録をいただく松尾清一 募金委員会発起人代表
（右）柵木充明　愛知県医師信用組合理事長

連載クイズ ドクターG（ジェネラル）の診療日記 その3（P13）の解答

答：診断は甲状腺機能亢進症。

解説：

甲状腺機能亢進症は，前頸部にある甲状腺ホルモンを出す甲状腺という器官の働きが亢進している病気です。原因としては，免疫（外敵から自分の体を守る働き）のしくみが間違って働いてしまい，自分の甲状腺の細胞を外敵だと認識して，甲状腺を刺激するような物質（自己抗体と言います）が体の中で作り出されて，甲状腺の働きが亢進し，甲状腺ホルモンが過剰に分泌されてしまうのです。

症状としては，動悸がする，汗がよく出る，暑がりになる，体重が減る，疲れやすい，手指が震える，下痢になる，いらいらするなどがあります。診察では，脈が速くなり，体に汗をかき，手指が細かく震える（振戦：しんせんと言います）などの特徴的な異常が観察されます。また甲状腺腫といって甲状腺が大きく腫れたり，甲状腺ホルモンの影響で目が飛び出してくるような顔つきになることもあります。血液検査では甲状腺ホルモンが過剰に分泌されていることをチェックし，甲状腺に対する自己抗体が存在することを確かめて診断をつけます。それに加えて，超音波検査などで画像上の評価もします。

治療としては，抗甲状腺剤という飲み薬で対応しますが，難治性の場合は放射線療法や外科的に甲状腺を切除する場合もあります。

胸がドキドキするという症状は一般的に「動悸」と呼ばれ，患者さんは心臓の病気ではないかと心配されることが多いのですが，このように必ずしも原因が心臓にあるとは限らないので，胸の症状であっても心臓のみにとらわれず，広く診断を考えていくことが大切ですね。

平成25年5月7日

ナディック通信no.31

TOPICS

- ☑ 5月の手作り教室のご報告
- ☑ インターネット検索に役立つ情報
- ☑ 平成24年度4月～3月　統計

【5月の手作り教室のご報告】

5月1日（水）にナディックでは，手作り教室が開催されました。今回は母の日が近いということもあり，「布で作るカーネーション」をみなさんで作りました。わきあいあいと華やかな作品を作られていました。

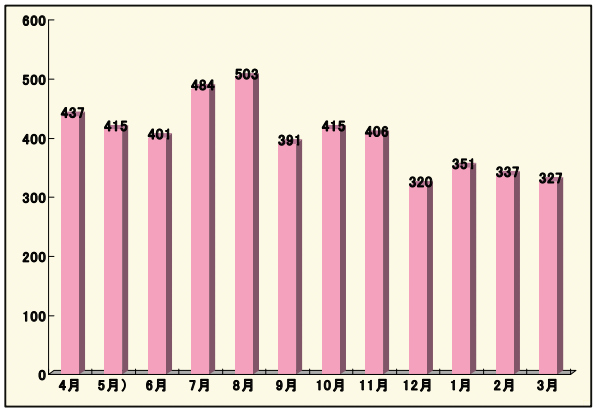
ナディックでは毎月第一水曜日の14時から手作り教室を開催しています。どなたでもお気軽にご参加ください。

【インターネット検索に役立つ情報】

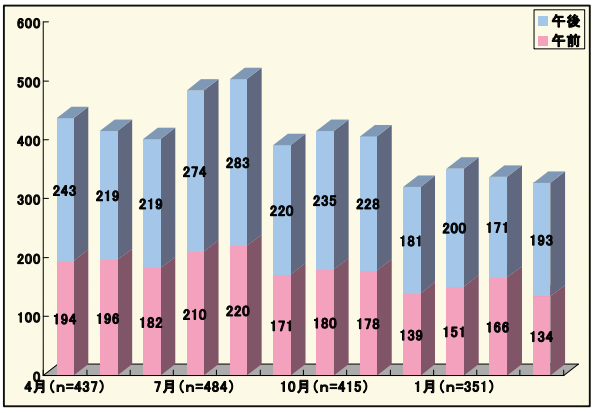
ナディックには書籍以外の情報を調べたい患者さん，ご家族のためにインターネットが利用できるパソコンを４台用意してあります。
インターネットの横にある掲示板では患者さんが検索しやすいように，いろいろな病気のガイドラインや療養に関して検索できるサイトを紹介しています。さまざまな情報があるなかで患者さんが正しい情報を得られるよう今後も工夫していきたいと思います。
ぜひナディックでインターネットで利用をされる際の参考にしてみてください！！

平成２４年度　ナディック利用者統計

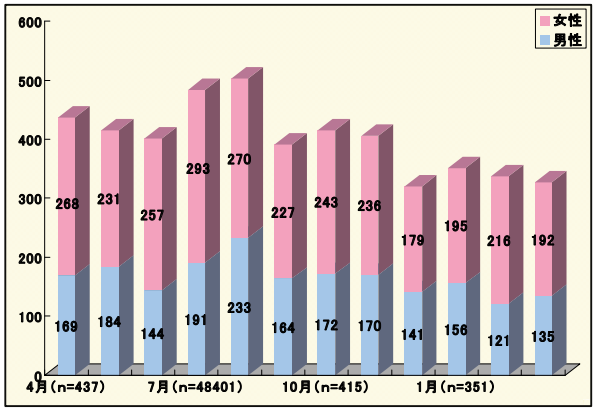
総利用者数



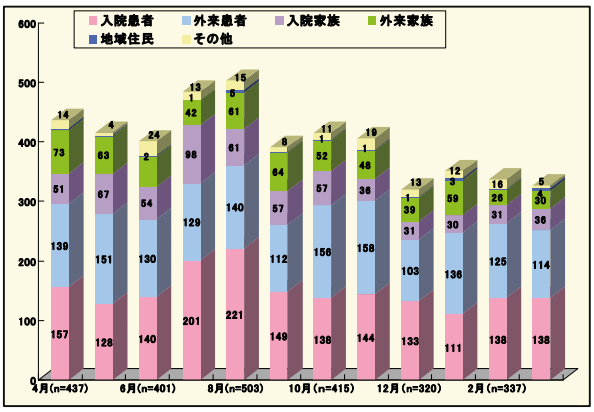
利用時間帯



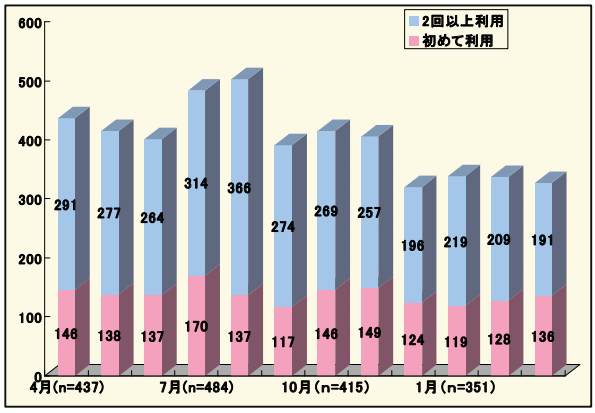
性別



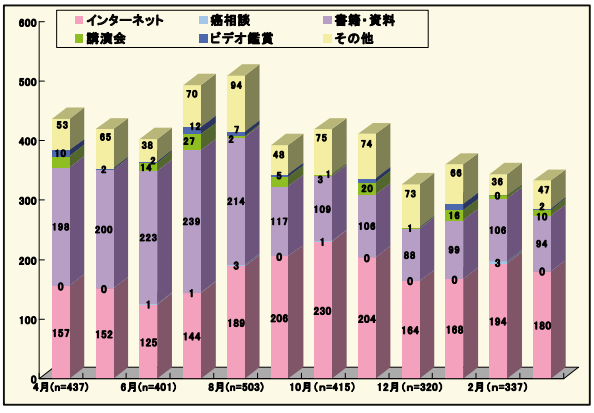
属性



利用回数



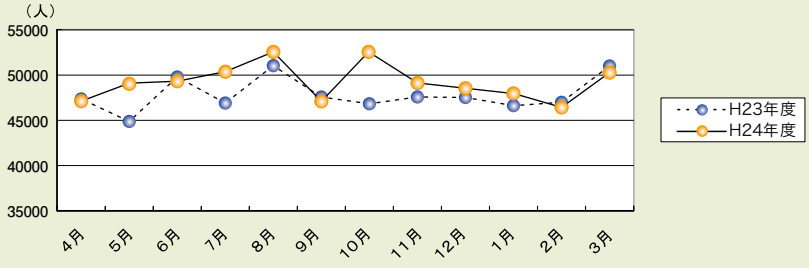
利用サービス



名大病院の医事統計

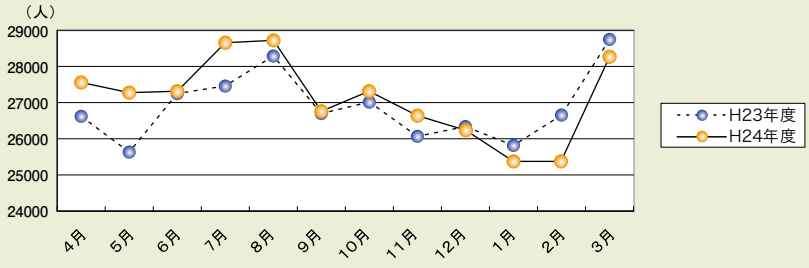
経営企画課

1.外来患者数の推移



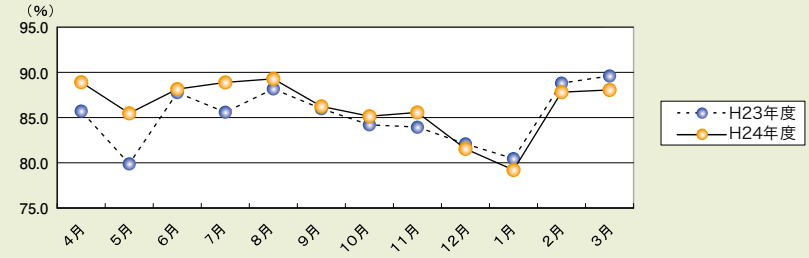
2. 入院患者数の推移

（註）入院患者数は，在院患者延日数＋退院患者延日数です。



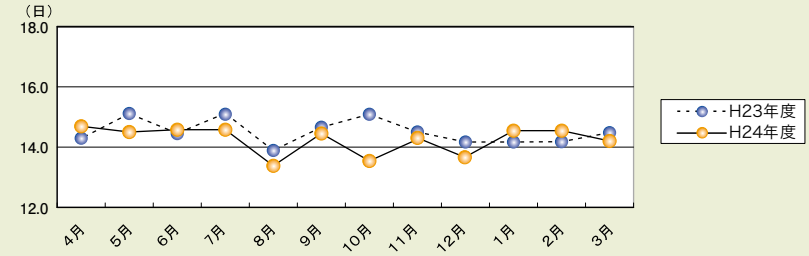
3. 病床稼働率の推移

（註）病床稼働率の計算は，実働病床数1035床に対する割合です。

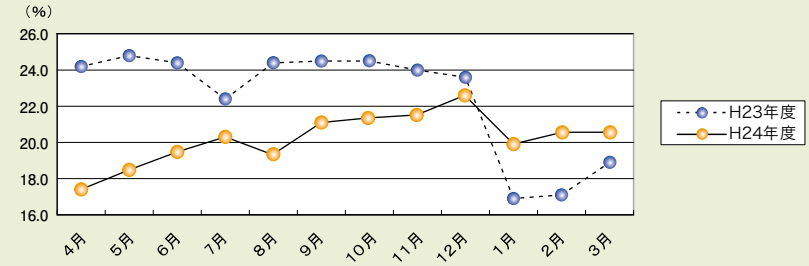


4. 平均在院日数の推移

（註）NICU，精神病棟等を除いた一般病棟の健康保険上の平均在院日数です。

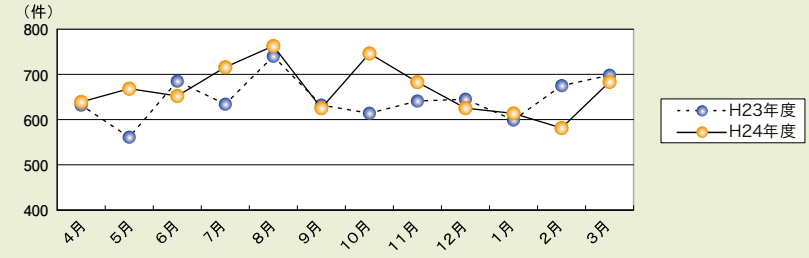


5. クリニカルパス適用率の推移



6.手術件数の推移

（註）中央手術室での手術件数のみです。



編集後記

満開だった桜がいつしか葉桜となり，吹く風にさわやかな初夏の匂いを感じる季節になりましたが，3月，南知多町の日間賀島ジョギング大会に参加しました。風もあまりない上天気に恵まれ，島の人口を超える約2,223名の参加者とともに気持ち良く海岸沿いを走りました。健康診断がきっかけで初めたジョギングですが，今では，数ヶ月に一度のサイクルで大会参加を楽しんでいます。

週１以上のランナーが500万人以上を突破した日本のジョギング･ランニングブームですが，このような市民マラソン･ジョギング大会の運営の多くは，地域のボランティアによって支えられているそうです。

今年，名大病院では地域の小児がん治療のけん引役となる小児がん拠点病院の指定を受けました。拠点病院として今後，専門的医療の提供と，患者さん･家族の長期にわたる支援を目指すことになります。敷地内に誘致した，医療支援のボランティア活動の拠点となる，小児の患者と家族の長期滞在施設「ドナルド･マクドナルハウス･なごや」（本年度開設予定）とともに，大きな支援の輪をつないでいくことになるでしょう。

（経理課経理掛長　長谷川 清子）

お知らせ　『かわらばん』は，名古屋大学医学部附属病院ホームページでもご覧いただけます。

ホームページアドレス

http://www.med.nagoya-u.ac.jp/hospital/

（トップページ ⇒ 最新情報 ⇒ 病院かわらばん）

かわらばん編集委員会

顧問	石黒病院長	塩﨑事務部長
アドバイザー	室原　豊明	
委員長	中島　務	
委員	鈴木　富雄	石川　和宏
	阿部　真治	髙津真由美
	植村　真美	稲垣　祐子
	曽谷　祐一	平松　利朗
	山口　誠	大久保　淳
	長谷川清子	土屋　有司
	隅坂　弘幸	梶浦　章司

No.89
医学部･医学系研究科総務課
TEL　741-2111
（内線5003）
かわらばん編集委員会
発行日　2013年6月1日